

島・清流九条の会通信

会の名前と通信の名前変更のお知らせ

島中学校区九条の会→島・清流九条の会 島九条の会通信→島・清流九条の会通信

前号でも少しお知らせしましたが「島中学校区九条の会」世話人会は、2025年9月より会の名前を「島・清流九条の会」に、併せて通信の名前も「島九条の会通信」を「島・清流九条の会通信」と改めることを決めました。これは早田九条の会の活動の担い手が減少したこと、島九条の会も同様の悩みを抱えていることから、「一緒になって九条の会運動を続けよう」と両者の話し合いがまとまったことによるものです。その結果両九条の会会員の多くが住む木田・島・城西・早田・則武の各小学校区は、島・清流の両中学校区にあり地域的にもスッキリします。両九条の会会員のみなさん、これからも日本が9条を生かし・戦争をしない国であり続けるために、参議院選挙の結果にもあきらめないうでがんばりましょう！！

第71回例会のお知らせ

「人生は面白い 波乱の九十一年」

話す人 田中 良さん

とき 12月 6日(土)午後2時～4時ごろ

ところ 島公民館研修室(島小学校体育館1F)

会費 無料

島九の前代表田中良さんが、昨年自伝(「人生は面白い 波乱の九十一年」)を出版されました。ご存知のように田中さんは大学卒業後養護施設の指導員となりその後、岐阜短大附属高校を経て富田学園で高校教員となります。そこは「奴隷職場」でしたが、田中さんは組合を作り敢然と戦って、職場を民主化します。その後性教育運動(性教協)に携わり全国、いや海外でも活躍、さらに岐阜での九条の会結成など田中さんの人生は、私たちのような凡人にはどうしてここまでできるのかと、驚きでいっぱいです。島九でも結成から代表として活動の中心でした。

世話人会でも話し合いましたが、田中さんの本には私たちが学ぶべきたくさんの方が書いてあり、ぜひ田中さんの「面白い 波乱の九十一年」をご本人の口から直接聞こうということになりました。今まで田中さんと縁のあった方はもちろん、縁のなかった人も。田中さんのお話はこれからの生き方にきっとプラスになります。

ちょっと先の話ですが皆さんぜひご参加を！

日本国憲法公布79周年記念

「ぎふ平和のつどい」のご案内

今年は敗戦後80年、今年の11月3日は日本国憲法公布79年に当たります。そして今年も県内九条の会が合同で見出しの、「ぎふ平和のつどい」を11月3日に開きます。今年の講師は

テレビでもお馴染み、青木理さんです。前半の音楽は伊奈波通りにある子どもの本専門店の杉山三四郎さんのライブです。

対外危機と軍事力強化が声高に叫ばれ、排外主義の波が日本にも押し寄せ、戦争のきな臭いが漂い出した日本で、「戦後」をずっと続けるにはどうすればよいのか、青木さんと考えましょう。

詳しくは同封したチラシで！ チケットは島・清流九条の会でも取り扱います。1枚1000円です。市民会館（ぎふしんフォーラム）の広い大ホールをいっぱいにして青木さんを迎えましょう。

9月19日はスタンディングに参加を！

今年の9月19日は、2015年9月19日に「戦争法」が参議院で強行採決されてちょうど10年目になります。南西諸島だけでなく各地に自衛隊の長距離ミサイルの配備や米軍との共同訓練が伝えられるなど、キナ臭い匂いそれに排外主義もがますます強くなっています。今こそ、戦争法廃止・軍拡反対・九条守れの声をみんなであげましょう。

- ・9.19「もう黙っとれんアクション」 スタンディング 77回（場所 名鉄岐阜駅前）17:30~18:15 ごろ
- ・島・則武・早田有志スタンディング（場所 忠節橋北坂下交差点）7:45~8:15

忠節橋北坂下交差点のスタンディングは、しばらく休んでいましたが、10年目の9月19日に限って行います。ぜひご参加ください（今後は未定です、再開する時はあらためてお知らせします）。

9月の催しのご案内

☆サロン9条 第385回例会

テーマ 「治安維持法施行100年～ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために～」

話題提供 若山晴史さん（治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟・中央本部長）

日時 9月23日（火・祝日） 午後2時～4時

会場 日本キリスト教会岐阜教会 2F会議室（岐阜県弁護士会館東隣）

※詳しくは別紙チラシをご覧ください

☆岐阜総がかり行動実行委員会 結成10周年 記念講演会

テーマ 「進む憲法破壊、それでも9条の力」

講師 川口 創さん（弁護士・元自衛隊イラク派兵差し止め訴訟弁護団事務局長）

日時 9月27日（土）午後2時～4時

資料代 400円

会場 岐阜県図書館 2F 多目的ホール

※詳しくは別紙チラシをご覧ください

編集者のぼやき 新型護衛艦をオーストラリアへ輸出するのだ、次期戦闘機をイギリスやイタリア（サウジアラビアも？）と共同開発するのだ、自衛隊の短距離ミサイルを長距離化するのだ、日米経済交渉で大量の米国製武器を買う約束だのと、昨今の日本政府の「防衛」政策は従来の「安全保障環境の深刻化」論による軍拡と併せて、ますます視野の狭い軍事一辺倒になっている★その行き着く先はかつての大日本帝国の悲惨な結末ではないか★その点で週刊金曜日の8/22号が紹介する、非暴力による抵抗・防衛の優位性を説いたジョン・シャープの議論は傾聴に値する★Eテレ「100分で名著」でも紹介されたが、暴力（武力）による抵抗は相手の更なる暴力を誘い、失敗に終わることが多く、例え成功しても悲惨な結果となる。